



第70号
 ボーイスカウト
 旭第1団
 運動拡大委員会

ホームページ「旭第1団」で検索



世界ジャンボリー参加のご挨拶のため、明智旭市長を訪問〔6月22日〕



団委員長 新行内 正巳

4年ごとに開催される世界ジャンボリー、第13回大会以来44年ぶりに日本の山口県で開催されました。旭第1団からはボーイスカウト4人、ベンチャースカウト2人、指導者3人が参加しました。7月下旬から8月初旬の約2週間、世界各地から3万人のスカウトが集まる大きな大会です。

健康に過ごす強靱な体力、安全に快適に過ごすためのスカウト技術、相手を思いやる広い心と協調心。炎天下、不慣れたキャンプ生活で多くの友達を作り、多くの事を学んできたことでしよう。スカウト運動の目的である社会に役立つ青少年の育成。その青少年たちの友情の結集で世界平和を実現する。大きな目的に向かい確かな手ごたえを持ってきてくれたことを信じています。

期間中には広島島の原爆慰霊祭への参加もありました。参加した世界中のスカウトが平和に対する認識を新たにしたことでしょう。貴重な体験を人生の宝に、糧に。

第23回世界スカウトジャンボリー

7月28日から8月8日まで、「第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)」が開かれました。

155の国と地域から約3万4千人が、会場である山口市阿知須きらら浜に集まりました。我が国で4年ぶりに開かれるこの世界ジャンボリーに、旭第一団からベンチャースカウト2名、ボーイスカウト4名が参加し、JPO115隊スネーク班として活動しました。また、3名のリーダーがIST(国際サービsteam)として参加し、大会運営に当たりました。

ベンチャー隊

世界ジャンボリーを終えて

小川 航輝

僕は、この世界ジャンボリーが終わったらボーイスカウトをやめようと思っていた。けど、世界ジャンボリーは自分を変えた。自分でもよくわからなかったが、やめようと思う気持ちはどこかへ飛んでいた。自分でもすごく不思議だった。

出発前はすごく楽しみや不安な気持ちがあった。自分たちは開会式の二日前に行き、バスや新幹線はすごく快適だった。新幹線を降り、広島

から会場までバスで行き、会場に着こうとしたとき、日本ジャンボリー会場にあったドームが見え、二年前を思い出した。そして、やっと思いで会場に着いた。バスから降りるとやはり暑くて、これから暑い日々が続くのかと思うと倒れそうだった。自分たちのサイトは、アリーナショーと開会式や閉会式を行うところの近くだった。

僕はすべての出来事が貴重な体験であり、忘れることのできない時間だった。なかでも一番印象に残ったのは、広島ピースプログラムだった。平和記念館や原爆ドームを見に行ったりして、すごく今の日本の平和を感じられた。

この第二十三回世界スカウトジャンボリーに参加して、もっと英語を



勉強した方が良かったと思ったことやもっと技術を学びたいと思うことや色々な思いがあった。次の四年後のアメリカでの世界ジャンボリーにISTとして参加したい。そのためには英語を勉強し、今回よりももっと外国人と交流できるようにしたい。

第23回世界スカウトジャンボリー

熱田 敏信

今回のジャンボリーにぼくは、スネーク班次長として参加しました。

ぼくのジャンボリー中の目標は、「自分の英語力で外国人と話す」でした。ところが、自分の力では、表現できなかったり、とらえ方が間違ったりしていたので、改めてもっと英語を勉強しなければならぬと思いました。

ジャンボリー期間中の生活では、班長に協力して行動できました。班員とともに行動したプログラムは、どれも楽しかったです。今回のジャンボリーで学んだことを日々の生活に生かしていきたいです。

ボーイ隊

僕のジャンボリー

イーグル班班長 高木 孝一

僕は今年の夏、世界スカウトジャンボリーに参加しました。ジャンボ

リーでは色々な体験をしました。
 一日目は、カルチャーでしたがまだ雰囲気馴染めていなかった為、何をしたらいいのかよく覚えていませんでした。
 二日目は、広島ピースプログラムでした。原爆資料館を見学したり、話を聞いたり、このプログラムで僕は原爆の恐ろしさと平和の大切さを改めて学びました。



三日目のネイチャーは、熱中症者が多くでた為中止になりました。
 四日目は、信仰奨励とフードフェスティバルとアリーナショーがあり

ました。信仰奨励は行きたいところが混んでいたり、終わっていたりして、思うように行動できませんでした。

フードフェスティバルは、各隊が自分達の団の名物か郷土料理を作って、他の隊のスカウトが食べに来たり、自分たちも他の隊に食べに行ったりするイベントです。僕たちはとても辛い調味料や、苦いグミを食べました。

アリーナショーでは、しょこたんなどの有名歌手やグループが出演していました。

五日目はGDVでした。GDVはカナダのスカウトと一緒に楽しく活動できました。

六日目のサイエンスは、難しい事ばかりで頭がパンクしそうになりました。

七日目のコミュニティは、山口県の小学生徒との触れ合いでした。色々なゲームをして楽しかったです。ゲームの後は錦帯橋を渡りました。景観も良くとても気持ち良かったです。最後に工場見学とスライム作りをしました、手持ちきれないほどの大きなスライムを作りました。

最終のプログラム、ウォーターでは水かけ遊び、ビーチフラッグ、ビーチバレーをしました。そのあと海で泳ぎました。泳いだ時、深いところで少し溺れそうになりました。

僕はプログラムGDVをカナダのスカウトと一緒に行いました。この

時僕は掟のスカウトは友情に厚い、を実践できと思います。しかし、他の掟があまり実践されてなかったの、これからは掟を意識して活動していきたいと思います。



ジャンボリーで感じたこと

イーグル班 大門 泰之

ジャンボリーで特に楽しかったのは、外国隊のスカウトと交流してコミュニケーションをとったことです。まるで海外旅行をしているようでした。

僕たちの隊のサイトの隣はファイア・エリアになっていて、そこは各隊の交流会の会場になります。僕たちはメキシコ隊・オランダ隊と交流しました。交流会でははつぴを着て、大漁節を踊って見せます。相手の隊

も自国の踊りを踊ったり、歌を歌ったりしてくれました。お互いに踊りを教えたり、見よう見まねで踊ったりして楽しく過ごしました。

また、ドイツの隊とは食事会をして、互いの国の食文化を学びました。僕たちの隊は冷たいうどんをご馳走しました。ドイツのスカウトは意外と気に入ったようで、すべて食べてしまいました。

食文化といえば、8月2日は文化交流日でフードフェスティバルがありました。これは各隊が自分の国の代表的な食べ物を振る舞うイベントです。自分たちの隊は餅を出しました。黄な粉餅が人気ですぐになくなってしまいました。ほかの日本の隊はタコ焼きや、かき氷、ようかん



を出していたようです。

ぼくたちもあちこち食べ歩きしました。イギリスのグミはゴムみたいな絵具みたいなにおいがしてしょっぱくてまずかったです。メキシコはタコスの具材のような料理がたくさんあり、中にはとても辛いものがありました。一番おいしかったのはイタリアのペンネです。

フリーの時間にも交流しました。メキシコの人はとてもテンションが高く、昼には道でチャンバラなどをして遊んでいて面白いです。

互いに持つて行った名刺や記念品を交換しました。僕が持つて行った中では日の丸の扇子と水引飾りが人気でした。オランダのスカウトからは木靴の形のチーフリングとスリッパをもらいました。これが一番のお気に入りです。

最後に、スカウトはみな助け合っでジャンボリーを楽しんでおり、どの国のスカウトもやっぱり親切なのだと思いました。

23WSJ

イーグル班 来栖 孝明

一番印象に残っているのは、広島ピースプログラムです。広島に原爆が落とされたのは、知っていました。が、実際に見てとても心が痛みました。

広島に向かうバスの中では、原爆のDVDを流していました。英語だったので、よくわかりませんでした。

画像はとても悲惨なものでした。

広島に着き、「原爆の子の像」の所へ行き、みんなが折ってくれた千羽鶴を奉納して、原爆ドームなどをみてから、資料館に入りました。

中には、被爆した人の写真や人形で、その時のようすが展示されていました。罪も無い人をこんな姿に変えてしまう原爆はこわいと思いました。平和なのがあたりまえになっていきますが、とても大事だと思っています。ジャンボリーには、たくさんの方の国の人々が参加していますが、原爆資料館をみて、みんなが同じように感じてくれたら、二度と戦争は、おこらないと思います。戦争のこわさを実感させてもらってよかったです。



そして、12泊13日の間で、僕はたくさんの人とコミュニケーションをとれた事が、良かったです。言葉は通じなくても、あいさつをかわしただけで、テンションが上がりました。

テンションが上がりすぎて、熱中症になってしまった事が、残念でなりません。ですが、やっちゃんと一緒に朝4時半半に起きて配給係をやり通す事ができたのが良かったです。

この13日間で、いろいろな事を学びました。今後にやく立てたいと思います。

23WSJに参加して

イーグル班 林 亮多

第23回ワールドスカウトジャンボリーではさまざまな国の人が来日して、とても貴重な経験をすることができました。

ぼくは、英語があまりできないのですが単語をある程度文法にあてはめて話しただけでも伝えたいことはだいたい伝えることができました。

その即席英語で近くにいたメキシコ隊とオランダ隊を助けることができました。その日は米をたかなければならず、パスタやパンが主食の彼らは僕たちのところに助けを求めてきたので、ぼくは隊付きの方と共に今回のキャンプで身に付けた米のたきかたを教えに行くことができました。自分はほぼ「オマケ」だったのですが、この行動がスカウトのおきてに沿っているものだったら幸いです。

す。

今回のキャンプでは環境係をしました。ほとんどそれぞれの仕事できませんでした。米炊きだったら自信があります。そして、たまに料理をしたので炊事に関してはかなり上達したと思います。ただし「かぜまる君」(カセットコンロ)を使用した時にかぎりますが。

今回学んだ米を炊く技術や英語を聞き取る耳などを活かしたいです。

そして今回のジャンボリーのセレモニーでは、皇太子様や安倍内閣総理大臣はじめとする著名人の方々が登場し、さらには中川翔子さんや安田レイさんなど多くのアーティストの方々も来てくださりとてもいいライブを見ることができました。さらに場外プログラムも2回あり、広島や山口県の岩国市に行くことができました。

この十三日間はぼくにとつての最高の思い出です。また北アメリカでジャンボリーがあるそうなので行ってみたいですね。

今回のジャンボリーはさまざまな人々の支えがあつてこそだと思いません。その感謝の心を忘れずにこれからのスカウト活動や普段の生活に活かしていきたいです。





ISTとしての私の使命

ボーイ隊副長 熱田 秀子

7月31日、ISTトレニングに参加。私の世界ジャンボリーが始まりました。

トレニングの目的は、ISTとして必要なスキルや知識について学び、世界ジャンボリーを成功させるため、それぞれのポジションで皆が同じレベルで同じ意識をもって物事にとりくむこと。

私はジャンボリーの参加は初めてで、もちろんISTも初めてで



す。医療関係者としての活動場所は、ジャンボリーホスピタル「中央救護室」。そこには日本全国から駆け付けた医師・看護師・薬剤師、みんなが救護に当たっていました。IST同士も顔を合わせるのが初めてだったので最初は戸惑いもありましたが、少しずつ環境にも慣れ、医師や通訳の人と協力して、一つ一つクリアしていきました。

私の担当はリカバリールームでした。日焼けで唇に水疱ができてしまったスカウト、足に熱湯を浴びてやけどをした人、腹痛・嘔気・嘔吐、いろいろな症状の人が来しました。

一番多かったのはやはり熱中症でした。強度の熱中症で意識のない人もいました。全身を水で冷やし、氷水の中に点滴を入れて冷やして一気に全開で点滴を続けました。1500から2000ccを身体に入れた頃にやっと意識が戻り始め、少しずつ状態も良くなり、回復した時は「良かったー。」その時の安堵感には忘れることができません。

ジャンボリーは3万4千人の町。その中で早朝、夜遅くなど不規則な時間にただただ他の人を助ける思いで活動をしました。朝4時30分に起床、中央救護室とは反対の方向にあるスタッフレストランに20分かけて歩き、朝食を済ませて昼食を受け取ります。30分歩いて7時からの任務に就きます。歩いて、歩いて、とにかくよく歩きました。

ISTとして23WSJに参加し、活動したことは今までの人生の中で最も強烈な経験の一つとなりました。

23WSJに参加させていただき、本当に良かったです。

メディカルチーム

ボーイ隊副長 小川あすか

私は看護師としてIST参加をしました。7月30日に8月4日の勤務終了までの6日間、たくさんの方との出会いがあり、それは貴重な経験となりました。

ジャンボリー会場は東京ドーム60個分の大きさで、スカウトとIST合わせて約5万人が生活しています。会場の中には十数か所の救護所があり、中央救護所が一所あります。これがジャンボリー病院です。病院は大きなテントで作られていて、スタッフは受付・医療事務・臨床検査技師・薬剤師・医師・歯科医師・看護師で一つのチームとなっています。

ここで初めて会う医師や他のメディカルスタッフと仕事をするのは、普段の仕事で感じているものとは違う緊張感がありました。病院は一日に500人くらいの患者さんが受診にきました。街の総合病院並みの稼働です。ですが、違いはほとんどの患者さんが外国人。日本人の患者は1割に満たなかったと思います。



す。そして、メディカルチームスタッフも半分は外国人です。各ハブにある救護所は、すべてが外国人スタッフでした。病院本部だけは日本人スタッフが配属されています。

病院は、受付でトリアージを行い、大きく外科と内科に分けられました。内科的には熱中症の患者さんが多く、外科的には足の創傷が多かったです。私は主に外科についていましたが、局所麻酔下の小さな手術は毎日何件も行っていました。

会話は基本的に英語でした。日本なのに日本語が通じないのです。日本にいないのに日本ではないのです。(笑)日がたつにつれて英語での会話にも慣れてきていたので、日本人ドクターと英語で話してしまい、途中でお互い日本人だと気付き、笑っ

お陰様で

高木 彩裕実

今回のタイ国スカウトのお話を頂いてから、「タイ：?!」仏教の国、微笑みの国からやって来る二人の少女とはどんな子供たちだろうかと想像するだけでもワクワク。

8月8日の午後、バスで到着する二人を香取神宮へ迎えに行きました。前日までうだるような暑さだったのに、当日は朝から涼しい風が吹き、まるでお天気まで歓迎しているかのようでした。

初めてモツとミントに会ったとき、「こんにちは。お母さんと呼んでいいですか?」買い物に行けば、「お母さん、荷物を持ちますよ。」そしてご飯を食べた後は、「お母さん、美味しかったです。」とカタコトの日本語で言葉をかけてくれ、とても親しみを覚えました。

団を挙げての交流会では日本らしいもてなしに大層喜んでくれました。最後の日は泣かれてしまっただけで胸の熱くなる思いもありませんが、このような体験ができたのもボーイスカウト活動のお陰です。ありがとうございました。

ホームステイ

来栖 静子

今回、少しでもお役に立てればと思ひ、タイランドから16歳と17歳の

少年を初めて受け入れました。二人とも、とてもいい子達で、PONとBOOKというニックネームで呼び、彼らも「日本のお母さん」と言っで懐いてくれました。会話も日本語と英語、といっても私は単語を並べる程度で、あとはジェスチャーとスマホの言語変換アプリを使い、問題はありませんでした。文明の利器に感謝です!

滞在二日目の歓迎交流会もスカウトや保護者がたくさん参加して、久しぶりに楽しさを共有することができました。スカウト達もはじめは少し緊張していたようですが、打ち解けるまでに時間がかからなかったと思います。国が変われば、祝声の仕方も違うようで、「弥栄」は万国共通だと思っていました。日本独自だったんですね。ゲームやスイカ割りも思った以上に盛り上がり、勢い余って棒を折るハプニングもあるなど、心の底から楽しんでくれたと思います。流しそうめんもタイ国のスカウトは初体験で、「おもしろい!」と言っていました。

いつの間にかPONにおぶさつて遊ぶ姿を見て、言葉が通じなくても、心で感じ取れる子供たちはすごいと思います。PONも「日本の子はかわいい。日本がもっと好きになりました。」と言っていました。保護者からも、「短い時間だったけれど、他国にもボーイスカウトがあるんだ、という実感が持て、子供の世界

が広がりました。良い経験になりました。」とのコメントを頂き、交流会を開催して本当に良かったと思ひました。



開催するにあたり、団が一つになつて「お・も・て・な・し」ができたことが、何よりもうれしいことです。

タイ国のスカウトが帰る時に「それはそれは楽しい日でした。忘れられません。」と精一杯の日本語で言ってくれた言葉に、お互いの気持ちは通じた、と実感しました。スカウト達同様に私も良い経験をさせて頂き感謝いたします。

これをきっかけに団にもっと良い風が吹きますように。 弥栄

ビーバー隊



楽しい 隊集会

楽しかった電車の旅

野本 暁太郎

ぼくは電車が大好きです。その大好きな電車に隊集会で2回も乗りました。きつぷを買ったり、改札口を通ったり、電車に乗ってドアが閉まって発車したときのドキドキが今でもわすれられません。ぼくは楽しいことをたくさんする隊集会がとても大好きです。これからもたくさん楽しいことをやりたいです。

楽しかった思い出

山口 るな

ボーイスカウトで楽しかった思い出は、銚子まで行く電車に乗って、みんなとお出かけたことです。遠足みたいにいるるところを歩いたり、おべんとうを食べたり、プラネタリウムを見たり、帰りにみんなとたいやきを食べたことが楽しかったです。またみんなと遠足みたいなスカウト活動がしたいです。

楽しいうれしいたいしゅうかい

菅谷 尚将

いつも日曜日は、朝起きるのがおそいけど、たいしゅうかいがある日は、ワクワクして早起きができます。

ほかの学校の人たちといろんなところへ出かけて、楽しいことをたくさんしました。

ザリガニつりと、プラネタリウムへ行ったことが思い出にのこっています。

タイの国の人といっしょに、スイカわりをしたり、ながしそうめんを食べたことも楽しかったです。



たのしかったでんしゃのり

はやし ひろと

ぼくは、でんしゃののっていったのが、たのしかったです。みんなと

なかよくおはなしたり、プラネタリウムもみれたのしかったです。これから、いろんなことにチャレンジしていきたいです。

隊集会の思い出

野本 愛珠

わたしは今までたくさんさんの隊集会に参加して、ぜんぶ楽しかったです。

一番は、チューリップの球根植えです。お花が大好きなので、球根を植えるとき、「何色の花がさくかな。」と思いつながら植えました。

4月にチューリップを見に行ったとき、赤いお花がさいているのを見てとてもうれしかったです。

これからもいろいろなことをするのが楽しみです。



楽しかったザリガニつり

仲條 葵

わたしが一番楽しかったことは、たちばな公園でのザリガニつりです。

ザリガニを見るのもつるのもはじめてで、さいしょはこわかったけれど、いつぱいつれてうれしかったです。

ビーバーたいでは、はじめてのことをみんなで楽しくできるので、いつも楽しみにしています。

これからも楽しい思い出をつくっていききたいです。



たのしかったホットケーキ作り

菅谷 そら

ぼくがたいしゅう会で一番たのしかった思い出はユートピアセンター

でのホットケーキ作りです。

はじめにたまごをわってまぜて、つぎにホットケーキのもとを入れました。ホットケーキをやくときに、れお兄ちゃんが「あぶない。」と言ったので、ぼくはすこしだけやりました。

つぎにかざりつけをやりました。ハチミツやチョコレートのおかしやクリームでデコレーションしたのでおいしそうに見えました。

さいごにホットケーキをたべて、おいしかったです。



たのしかった地引網

真田 ゆうと

ぼくが、たいしゅうかいで一番たのしかったのは、地引網でお魚をとったことです。あみを引っぱるのは、とてもたいへんだったけど、お

魚がとれてよかったです。お魚にさわるのはこわかったけど、さいごには手でつかむことができました。とれたお魚をやいてたべたら、とてもおいしかったです。またみんなでお魚とりにいきたいです。



みんなでがんばった地引網

小林ゆづき

ぼくは、じびきあみとは、あみをふねから下ろしてふねまで引き上げるものとおもっていました。でもじっさいは、自分たちの力で引き上げるものでした。あみを引っばるのがたいへんでした。

あみの中に小さい魚はいるとおもったけど、クラゲやサメがいるとおもっていませんでした。魚がいっぱいいいてよかったです。またやりたいです。



ビーバー隊

保護者の声

楽しいスカウト活動

山口 泰子

入隊してから一年が経ち、ビッグビーバーになった今も、マイペースな娘は相変わらずマイペースで、みんなの手本になっているのか心配するところですが、隊集会での様子を見てみると、学校では体験できないことをして、すごく楽しんでる姿を見て、両親ともどもうれしく思っています。

また来年にはカブへ上進しますが、これからまたいろんな活動を通して成長するのを、とても楽しみにしております。

隊長さんを始めとする関係者の皆さんには、いつもお世話になり、ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

スカウト活動に参加して

菅谷真由美

昨年九月に正式入隊してから、一年が経ちました。

息子は引込み思案なので、最初は馴染めるか心配でしたが、他のスカウトや団の行事の時には、お兄さんスカウトたちに良くしてもらい、今では隊集会や行事を楽しみにして

います。

息子は、憧れのスカウトがいて、「お兄さんのようになりたい。」と言っています。

家族ではなかなかいけない場所に行ったり、経験できないことを体験したり、新しいことを発見したりして、本人も家族もたいへん満足しています。

これからも、社会のルールを学びながら、心身ともに逞しく成長して欲しいと願っています。

元気に遊びました!

〔26年〕

9月 団集会・カントリー大作戦
10月 入隊式

チューリップの球根植え
11月 ビーバーランド
12月 募金とスカウトの集い
クリスマススの工作

〔27年〕

1月 親子ゲーム大会
2月 ホットケーキ作り・B.P祭
3月 植樹祭
4月 チューリップの観察
5月 グランドゴルフ
6月 ザリガニ釣り
7月 地曳網
8月 プラネタリウム

カブ隊

楽しかった!

1組 くま 西 裕呂斗

カブホリデーの山登りでは、すぐつかれました。ロープで登るところが3〜4こぐらいあって、しかも1こ1こ形がちがうので、よけいドキドキしました。そして、「今年のキャンプは命がけだね。」と言ってしまっただ変でした。

二日目では、「伝説の玉」探して、どうくつや戦争でなくなった人のところに行ったり、色々大変でした。とちゅうで、ネコに会いました。名前を「シロ」と名付けました。

三日目は、海に行きました。海でウニを食べました。サーモンのような味でした。ビーチバレーもしました。ビーチバレーでは、逆転勝ちしました。今回は、自然に色々ふれられたと思います。

楽しかったはじめてのカブホリデー

1組 うさぎ 久保田崇介

ぼくはカブホリデーで、南ほうそら市に行きました。一日目は、山登りをしました。登る山を見て、さいしょは「こんな山、登れるわけがない。」と言っていました。一番上についた時は「本当に登れた。」と思いました。少し雨がふっていて、一

番上からのけしきは、あまり見えませんでした。けしきが見えた時、「こんなに登ったんだな。」と思いました。一番上で昼食をすませ、下山しました。上りよりも下りのほうが正直つらかったです。

二日目は、ふくだんいいん長からたのまれた九つの玉を見つげに行きました。地図をたよりに玉がある所に行きます。午前中は、一組、二組、三つずつ見つけ、一日目の山登りの一つで、計七つです。午後は両方の組が一つずつ集めて、全部そろいました。夜にはキャンプファイヤーをしました。どちらも楽しかったです。三日目にいそ遊びをして帰ってきました。とても楽しいカブホリデーでした。



カブホリデー

1組 うさぎ 小林 莉久

夏休みにカブホリデーに行きました。はじめて山登りをして、けしきもよかったです、みんなでてっぺんまで登れて、よかったです。

つぎの日は、ハイキングをして、みんなで九つの玉をさがすのに少しいへんでしたが、玉を見つげることができて、とてもうれしかったです。キャンプファイヤーでは、げきがうまくできました。二組もすごく上手でした。歌もみんなで歌って、楽しかったです。夜は、部屋でまくらなげをしておもしろかったです。最後の日は、いそ遊びをしたり、ビーチバレーをして楽しかったです。三日間、みんなで協力してすごせてよかったです。またみんなでカブホリデーに行きたいです。

カブホリデー

1組 うさぎ 川畑 晃大

ぼくは、8月28日〜30日まで、カブホリデーで大房岬に行きました。一日目は、伊予ヶ岳登山をしました。途中まで階段がきつかったです。後半はロッククライミングみたいで楽しかったです。登れてうれしかったです。夜はナイトウォークでたくさんのカニを見ました。暗い道を歩くのが楽しかったです。

二日目は、玉さがしをしました。海の近くの木のまわりで、玉を見つ

けることができました。宝さがしみたいで楽しかったです。夜はキャンプファイヤーをして楽しかったです。三日目は、いそ遊びをしました。朝から雨がふっていて、少し寒かったけど、ヤドカリやウニを見られて楽しかったです。

カブホリデーの三日間で、いろいろなことを体験しました。一番楽しかったことは、スカウトの仲間と一っしよの部屋でねたり、げきの練習をしたことです。



カブホリデー

1組 うさぎ 長嶋 亜門

カブホリデーで、山に登った。ものすごく高かった。

それで、しようねんしぜんの方にあって、キャンプをしたり、キャンプファイヤーをした。くるまいすだけ、みんながたすけてくれたから、さいごまでがんばれた。

楽しかったカブホリデー

2組 くま 鈴木 来夢

カブホリデーに行きました。まずは、山登りをしました。ロープを使って登りました。頂上についたら、景色はとってもきれいで、ちよつと白くなっていました。夜にカニを見ました。とてもたくさんいました。

次の日、玉をさがすために地図を見て歩きました。最後の玉は、どうくつの近くでした。組のみんなとデコンコーチで、どうくつの中に入りました。くらくて、ちよつとこわくて、おもしろかったです。

三日目は、海に行きました。海はすきとおっていて、きれいでした。魚がいました。このカブホリデーは、とても楽しかったです。

ボーイスカウトの思い出

2組 くま 飯田愛香李

私がボーイスカウトで一番思い出のこったのは、カブホリデーです。なぜなら、すごくつらくて、すごく楽しかったからです。山登りをした時、ずつと歩き、岩にロープで登っ

たりとてもつらかったです。でも、頂上についた時、すぐきれいで、登ってよかったと思いました。みんなカブ弁を食べたら、つかれがふきとび、みんなの笑顔で山登りも楽しくできました。

宝探しの時です。約400段もある階段を上り、すぐつかれて、みんなもつかれはてていたけど、みんなで声をかけながら、助け合い協力して進んでいけたところが、とてもうれしかったです。協力し合い、つらいこんなをのりこえられ、これが私の一番楽しかった思い出です。

カブホリデーの思い出

2組 うさぎ 徳永 將

初日に山登りをして感じたことは、つかれて死んじやいそうです。でも、楽しかったし頂上まで行けて、雲の上に行つて、白くて落っこちそうでした。こわかったです。

2日目のキャンプファイヤーで、げきをやってきんちようしました。「大きなかぶ」は、とてもおもしろかったです。

3日目のいそ遊びは、さむかったけど、ウニを食べたり魚が泳いでいるのが見られて、とてもいいけいんになりました。かえるときは、さみしくてないちやいました。

全員がさんかできて、組ごときょうりよくできて、楽しいカブホリデーでした。

楽しかったカブホリデー

2組 うさぎ 石橋 光稀

はじめてカブホリデーにさんかしました。一日目に、いよがたけに登山に行きました。おもったより登るのがたいへんでしたが、岩場上がる時は楽しかったです。それで、頂上についた時は、さいこうでした。大ぶさ少年自然の家にとまりました。ナイトハイクでは、カニを見ました。岩場にいっぱいいました。

二日目には、九個の玉をさがすたけんに行きました。さいごにどうくつに入っておもしろかったです。夜はキャンプファイヤーで、げきの発表をしました。

三日目に、海でいそ遊びをしました。楽しかったです。三日間、みんなとすごせて、さいこうでした。いっしょに食べたごはん、おいしかったです。また、行きたいです。



カブ隊

保護者の声

カブホリデーに参加して

一組保護者 川畑 博嗣

カブスカウトでの活動に息子が参加するようになり、だいぶ成長したように感じています。

今回のカブホリデーの二泊三日では、保護者として共に参加させていただきました。

事前の打ち合わせで確認していたこととして、大人として活動の手伝いはしても、親として子どもの行動には必要以上に口出しをしないということでした。例えば子どもたちが宿泊する部屋には保護者は入らないということ。そこは子供の城として尊重してほしいということでした。実際にこのことを意識

して子どもたちの様子を見てみると、親が口出ししなくても、子どもたちは不器用なりに色々と解決しているのだと感じることができました。様々な活動の中で自然と助け合い、支え合う姿や、誰かの頑張りを見て自分も負けじと頑張ろうとする姿がありました。自宅に戻ってから息子に、何が一番楽しかったかを聞くとき、しばらく考えてから「みんなと同じ部屋で泊まったこと。」と答えました。子どもにとっては何をしたかよりも、仲間と共に過ごしたこ

とが一番の思い出になったようです。これは親がいくら頑張っても作ることの出来ない思い出です。

今回の活動を通し、親として見守ることの意義を学んだ気がします。これからもスカウトでの活動を通してたくましくなっていく子どももの姿を楽しみにしています。

ボーイスカウトに入団して

二組保護者 飯田 俊江

娘がボーイスカウトに参加させて頂くことになってから二年が経ちました。体を動かしたり、野外活動がたくさん経験出来るということから入団を決めました。

隊集会では菓箱を作ったり、山に入って野草を採って調べ、料理にして食べたり、キャンプをしたり、今年カブホリデーで大房岬に二泊三日で山登りをしたり、395段もある階段で宝探しをしたり、たくさん活動の中で、ひと回りもふた回りも頼もしく成長していく姿を見ると、とても嬉しく感じます。

核家族が増えた今、学校や家庭だけでは、なかなか学ぶ事が難しい時代ですが、ボーイスカウトを通して幅広い年代の方々や多くの人達と関わり学ばせて頂けていることに感謝しています。

隊長を始めとし、活動を支えてくださる皆様、ありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

ボーイ隊

一年の総括

ボーイ隊上級班長 小林 陸

私は、ボーイ隊の最後となるこの一年を意義のあるものにできたと感じています。同時に、ちかいとおきでの実践について考えさせられた一年でもありました。

上級班長という役務について学ぶことの多かった、この役割と責任の大切さ。今まで班員として班の仕事をしていた時には気付けなかった班全体の雰囲気や個性、問題点などを認識できた事は今後のスカウト活動にとっても大きな収穫になると思います。

その点から、理想とする班員、スカウトの像に近づくために必要だと感じたものが、まずスカウト個人でのちかいとおきでの実践です。班員の個々の力をつけ、得意な技能を開拓していくことで、班全体の能力も高まる訳です。

しかし、いくらその班に能力があるうと、各々の得意とする技能分野を考慮した立ち回りをさせなければスカウトの能力が十分に活かせません。そこで重要となるのが班員それぞれの特長を理解し、様々なシチュエーションでそれを最大限に發揮させる優秀な指揮官であり、班員の成長を助ける班長という役割です。だからといって班長に全て任せ

きりにする訳では無く、班員一人ひとりが自分の与えられた役務に責任を持ち、技能を班のために行使することで、班としての連帯感や信頼関係、そして各々の役務に対する責任感が生まれるのだと思います。

こうして班活動を続けていけば、現代の社会に必要とされる人材に自然と育っていくはずで、その意味で、優秀なスカウトを育成することは社会の質を高めることにつながっているとも言えるはずで、私も社会の一部としての自覚を持って、これからもスカウト活動に励んでいきたいと思っています。

ボーイ隊のみなさん、ありがとうございました。

役割と責任

イーグル班次長 高石 晃宏

僕が一番心に残ったプログラムは、「長熊古墳ハイイク」です。まずこの地域に古墳があるということを知り、驚きました。

一度目はまったく進まずに、時間がないのにも関わらずにまったく急がずにゆっくり行動していき、その結果、コースを短縮することになりました。

二度目は、班員が少なかったのですが、一度歩いたコースだったので途中まで迷わず進めたのがとても大きかったと思います。少し走り歩きスカウトペースは実行できませんでしたが、予定よりも早く到着するこ

とができました。

しかし、大事なことは、自分が得意な技能を他の班員に教えられることだと思えます。とくに後輩に教えないといけないと思えます。

次長として今までやってきて、時間通りに行ったことはめつたに無く大変でした。みんなが楽しく活動することが大事だと思えますが、その上で時間やルールは守らなければいけないものです。いつか本場に技が必要になる災害時などに、「ボーイスカウトです。」と言えるスカウトになりたいです。

おきての「スカウトは誠実である」ということにもとづき、信頼され、教えられるスカウトを目指します。

ボーイスカウト活動

イーグル班 沖 駿介

今年度の活動は、海岸に行き松の苗を植えた植樹祭に参加しました。

サッカーとスカウト活動の両立は難しく、活動にはほとんど参加できませんでしたが、スカウトで経験した事をいかして、これからも生活面社会面で頑張っていきたいです。

ローバー隊

私のスカウティング

ローバー隊 来栖 輝明

私は、自分らしきを出せるボーイスカウト活動が大好きです。

カブスカウトの頃にベンチャーの先輩が、カブ隊のキャンプファイヤーに来てくれて、とても盛り上げてくれた事が心に残り、自分もこんなスカウトになりたいと思いました。

自分は、決してお手本になるようなスカウトではありませんが、後輩スカウト達が、ボーイスカウトを続けるきっかけになってくれたら嬉しいです。そんな思いで、他の隊の活動にもちよくちよく参加するように、個性豊かなスカウト達と関わっていきうちに自分もリーダーになりたいと思うようになりました。

カブ隊の副長補になりましたが、まだまだ指導者というよりは、スカウト側の見方や考え方しかできず、スカウト達と一緒に楽しんでいる感じでした。

目標は、スカウト達がなんでも話したり、相談できるようにリーダーになりたいです。それには色々なスキルを身につけなければならぬので、できるだけ講習会に参加し、自分自身が成長していかなければならないと思えます。少しずつですが、目標に向かっていきたいので、よろしくお願ひいたします。

団 委 員 相澤 雅則

育成会 理事 菅谷・山口

委員 ビーバー隊副長 大門 弥生

編集 カブ隊副長 鈴木 智子

編 ボーイ隊副長 高橋不二夫

ベンチャー隊長 吉田 俊郎